

## 群馬県における血栓回収術の現状

赤路 和則<sup>1)</sup> 富尾 亮介<sup>1)</sup> 植杉 剛<sup>2)</sup> 谷崎 義生<sup>1)</sup> 神澤 孝夫<sup>3)</sup>  
美原 盤<sup>2)</sup> 朝倉 健<sup>4)</sup>

- 1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科
- 2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科
- 3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門
- 4) 前橋赤十字病院 脳神経外科

RESCUE Japan Projectによる全国調査の人口10万人あたりの血栓回収術件数は、2016年では群馬県7.27件であり全国平均6.06件よりも多かったが、2018年では群馬県9.83件と増加したものの全国平均9.82件がそれ以上に増加しており、群馬県はほぼ全国平均並みである。人口10万人あたりの脳神経血管内治療学会専門医数は2016年では0.97人と全国平均の0.91人よりも多かったが、2018年では0.91人と減少し、全国平均の1.04人よりも少なかった。群馬県では、脳神経外科医が少ないこと、血栓回収術を行う脳神経内科医がほとんどいないことが課題であり、血栓回収術担当医師を増やす必要がある。

群馬県では、群馬脳卒中救急医療ネットワーク（Gunma Stroke Emergency Network : GSEN）が2009年から群馬県内56病院を対象にt-PA静注治療、血栓回収術の調査をしている。調査項目は急性期脳梗塞患者数、t-PA静注治療や血栓回収術の実施件数、t-PA静注治療や血栓回収術が常時施行可能か、他院からの転送受入患者数、退院時転帰良好（mRS 0-2）率、脳卒中学会専門医数、脳神経血管内治療学会専門医数、急性期脳卒中に対する十分な知識と経験を持つ医師数などであり、その結果を行政、消防、医師会にフィードバックしている。GSENの脳卒中救急研修ワーキンググループでは、PSLS（病院前脳卒中救護）を2008年8月から2019年10月まで96回開催し、のべ参加人数は2660名であり、全国1位である。ELVOスクリーンを救急隊の病院前救護研修に採用し、ELVOスクリーン陽性なら、ストロークバイパスで最寄りの病院よりも血栓回収術施行可能病院へ搬送するようお願いしている。2018年度、24時間365日血栓回収術施行可能なのは、群馬県内では12病院であった。脳神経血管内治療学会専門医は南東部に偏在し、渋川、沼田、吾妻、富岡医療圏では不在であるため、2009年から運行開始しているドクターヘリにも期待される。